

2019年2月1日  
現勢2,802名  
前月比-13名  
2,815名(1/1付)

# 小平東村山

発行所  
東京土建一般労働組合  
小平東村山支部  
小平市仲町381番地  
電話 042-342-2846  
FAX 042-342-2848  
発行人 川口 直明

## 組織増勢へ向け 決意新たに 2019 新春 旗びらき



新井副執行委員長の掛け声で100名を超える団結ガンパロー

小平副執行委員長の乾杯で喉を潤し、テーブルに並んだ料理に手を伸ばし、各々お腹を満たしました。歓談中には石塚組織部長が舞

【川口直明 支部教宣部長 記】  
1月18日 名の参加で支部旗開きを(金)小平 開催しました。市福祉会館 冒頭に「今年は亥年。市民ホール 猪突猛進して組合活動を前進させていこう」と井上清一執行委員長のあいさつがありました。続いて134

て来賓のあいさつとなり、はじめに本部の丸山副執行委員長から「東京土建全体で秋の月間3.5%の拡大目標は達成したが、年間実増1%は達成できなかった。今年組合員の協力で達成させたい」との力強い抱負がありました。小林正則小平市長からは「これからは、1940~50年代の公共施設・建物が一斉に建て替えの時期となる。市内道路のイタミもあり土木工事は増える見込み」と明るい話もありました。その他にも、多摩北ブロック役員や自由民主党の松本洋平衆議院議員・立憲民主党の末松義規衆議院議員・日本共産党の宮本徹衆議院議員らをはじめ、多くの都議・市議・共闘団体よりあいさつを頂きました。

台に上がり「今年の仲間づくり月間では、こたひが会の若手参加と、労災や講習・健診・各種共済制度などで対話を拡げ、必ず目標達成を目指そう」と全体に訴えかけました。



特等は美園分会の市さんでした(写真左)

### 134名が集結 分会同士の交流もすすむ

そしてお待ちかねの新春運試しお楽しみ抽選会。飛田副執行委員長のテンポのいい進行で番号が読み上げられるたびに、豪華景品を

催しが進むにつれお酒もススミ、それぞれの分会を渡り歩く組合員が多く見受けられ、賑やかな交流ができていた様子でした。その後、各分会・各会がステージに登壇し、前向きに明るく、1年の抱負を発表しました。

狙っている参加者たちは一喜一憂。大いに盛り上がりました。最後は、関田副執行委員長から支部四役を代表してあいさつがあり閉会となりました。今年も組織員2800名を死守し、実増目指して組合員一同頑張ります。



石塚 一広 組織部長

### 「春一番でスタートダッシュを」

昨年は皆さんの大奮闘の結果、春・秋の仲間づくり月間そして本部年間12%の目標を達成することができました。2019年は、2月からの春一番行動を皮切りに仲間づくり運動が始まります。この春一番・春と続く月間を成功させ、スタートダッシュを決めることが、年間達成・実増へ向けてとても重要となります。全分会達成を目指して、一丸となり共に頑張ります。



支部四役を代表し決意表明をする関田副執行委員長

### 用水路

昨年10月、国のエネルギー政策に内在する矛盾が九州で噴出した。当日は晴天続きで、再開した原発4基は稼働中。太陽光発電量の増加と電力消費量の減少が九州電力の需給バランスを狂わせた。大規模停電を避けるため、全国初の太陽光発電の出力制御(接続拒否)に踏み切った。日射量の多い九州は太陽光発電の普及率が全国一。風力・地熱を含め再生可能エネルギーは全電力の約20%でこれも全国一。政府の2030年目標値まであと一歩である。動き出したら容易に止められない原発に不可避の付属施設として揚水発電所がある。夜間や休日之余剰電力で揚水ポンプを動かす。下の池から上の池に水を引き揚げ、電力不足の時間帯に水力発電をして電力需給のバランスをとる「自然の蓄電池」である。ところが九電は太陽光発電の余剰電力での揚水発電を拒否。再開した原発を止めるのなら再エネ発電を止めろというのだ。大手電力十社のうち五社が同様の意向だという。原発最優先のエネルギー政策に、再生可能エネルギーの未来はないことを実証した事件である。(黒)

# 支部主催「フルハーネス講習を開催」

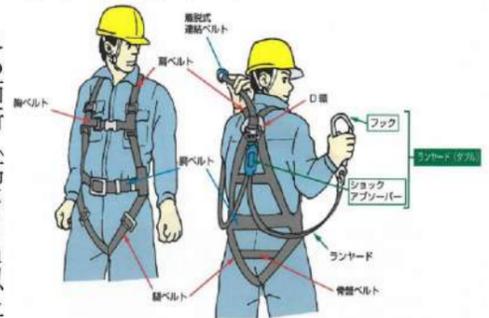
## 受講者49名全員が無事に修了



事務所会議室は受講者で溢れ返った

冬らしい乾燥した晴天の2月3日(日)、支部事務所にてフルハーネス特別教育講習を開催しました。今回の講習は、予定していた49名全員が無事に修了しました。講師は、八王子支部で執行委員長を務める向井明さんを迎えました。向井さんの職種は瓦屋さん。開始直後のラジオ体操と軽妙なトークで受講者の体と心をほぐし、丸一日続く講習の準備を整えました。その後は適宜休憩をはさみながら座学に実技と17時半までピッチリ学習。一人の落第者もなく、受講した49名全員が無事終了証が授与されました。

厚労省による「安全帯」の改定と安全に使用するためのガイドラインが策定されたことにより、高さ6.75mを超える箇所(高さ2m以上の作業床の設置が困難な箇所等も含む)ではフルハーネス型が義務付けられ、2022年1月以降は現行法令に基づく安全帯は使用不可となりました。またそれに伴い、高さが2m以上の箇所であって作業床を設けることが困難な箇所において、墜落制止用具のうちフルハーネス型のものを用いて行う作業に係る業務(ロープ高所作業に係る業務を除く。)を行うものは、フルハーネス特別教育の受講が義務化されました。



### の書読み

須賀 哲也 書記 編



### 芸人を目指すということ

《火花》又吉直樹

今回紹介する『火花』はお笑いコンビの「ピース」の又吉が執筆した作品である。

また、自身の中編小説で見事に「芥川賞」に輝いたのは皆さんご存知の通りだ。これは、さえないお笑

い芸人である徳永と破天荒な先輩芸人、神谷が売れっ子お笑い芸人を目指すまでの話である。

二人が初めて出会ったのは熱海の花火大会の漫才ショーだ。一生懸命やっている芸人をしり目に、みんな花火に夢中だ。徳永コンビは怒りを

覚えたが、言葉には出さずにステージを降りた。その後の出番だった神谷コンビは「地獄、地獄」と繰り返す奇想天外な漫才をした。神谷の人間性に魅力を感じ、師弟関係を結んだ二人。

そして月日が経ち、お互いに出番も多くなり、深夜帯にレギュラー番組をもてるようになった。深夜帯のお笑い番組はまさに「人気芸人の証」しかし、ここから落ちてしまふ芸人もいる。残念なことには徳永のやっていた深夜番組は「めっちゃイケ」にはなれなかった。

その後、徳永コンビは解散し一人になってしまった。徳永は友人の紹介で不動産屋に就職した。神谷は借金が1千万に膨れ上がり、失踪してしまつた。一年後に再会して二人で温泉へ行つてこの作品は終わりとする。

最後のオチが謎である。一瞬どうしたことなのかわからなかった。その後もどうしたことだったのか長考したが、結局わからなかった。この意味不明なオチが気になる人は『火花』を読むことをお勧めする。面白いこととは保証しよう。

(文藝春秋・1200円 十税)

### 新春特別企画 新年号クロスワードパズルの解答



答 エホウマイリ (恵方参り)

**正解者6名 全員が当選!**

正解者から抽選で10名のところ、正解者が5名だったため、正解者全員にクオカード1,000円分プレゼントとなりました。応募してくれた方々、素敵なメッセージありがとうございました。

### 映画部 群で映画部が発足!

#### 一ツ橋分会3群新年会

【川口直明 支部教宣部長 記】  
1月17日、ました。例年3群は群選一橋学園駅近くで、3群の新年会を開催しようと思つて、新年会に籍してはいますが、今回は7名と少しですが、乾杯をすれば話題が尽きず大盛り上がり。「小平東村山」新年号に載っていた記事に触れて、一口馬主の話に始まり、「群で東京競馬場に行きたい」「うん、いいね」お酒もすすみます。



群還元金を有意義に使い、毎年恒例で開催している

また仕事の話では、福沢さんから「今はオリンピック景気で忙しいが、今年いっぱいまで。来年以降は厳しくなるのでは」との意見。永井さんは、昨年仕事に指を手術する程の怪我をしたのですが「会社は労災を使わせてくれず大変だった」と話がありました。

そして、この夜一番盛り上がった話題は、長尾さんから出た映画の話。普段からレイトショーでゆったりと、お得に楽しんでるそうなので今話題『ボヘミアン・ラプソディ』も見に行ったとのこと。これには一同「見に行きたい!」「見に行きたい!」そのまの勢いでLINEグループを登録し、3郡映画部発足となりました。